

大学院研究室だより

平成23年度 論文博士・修士論文題目と執筆者氏名

博士前期課程

英語学専攻

修士論文

The differences in apology-making between Japanese
and English native speakers 杉田 健一

日本語学専攻

修士論文

中級日本語学習者の「断り」における文脈とタスクの影響

－日本語母語話者および英語母語話者との比較から－ 岡野 晃子

韓国人日本語学習者の動機づけと学習ストラテジーと発話能力の関係

－上級・中級学習者を対象に－ 佐々木真希

「テイル」と「着」－日中アスペクト対照研究－ 林 君憶

日本語学習者の複合動詞の習得

－複合動詞の種類とテスト形式が及ぼす影響－ 渡邊亜砂美

修士研究報告

受動文についての日中対照研究 張 蓉芳

中国における中国語母語日本語学習者の複合動詞「～出す」の習得

..... 趙 江

大学院活動報告

■言語科学講演会

2011年1月26日（水）に、本学3号館にて、神田外語大学大学院 言語科学研究科主催の講演会を行いました。講師として北川千里氏（マサチューセッツ大学アマースト校・名誉教授）を招き、「日本語動詞の時制と「～テイル」解釈、韓国語「～KO ISS」との比較において」という題目で講演が行われました。

■海外での日本語教育実習

2011年1月17日から2月3日まで、海外日本語教育インターンシップにより、国際交流基金の援助を受け、タイ国ブラパー大学人文社会学部日本語科へ、博士前期課程の学生2名（岡野晃子、佐々木真希）を派遣しました。活動の内容については、当該日本語プログラムの担当教員の指導のもと、授業の見学・観察および授業実践を行いました。また、活動ジャーナルの提出および、報告書の作成を行いました。

■ブリティッシュ・ヒルズ セミナー in 幕張

2011年6月4日（土）に、本学2号館において、ブリティッシュ・ヒルズセミナー in 幕張が開催されました。博士前期課程8名、博士後期課程1名、研修員1名、合計10名による研究発表を行い、活発な議論が展開されました。

■大学院オープンウィーク（神田外語大学の学部生および卒業生対象）

1. 大学院オープン授業

2011年6月27日（月）から7月2日（土）に、大学院で開講されている以下の9科目に関して、大学院オープン授業を行いました。

科目名：社会言語学研究、日本語教育文法研究、言語科学演習G、日本語学研究（統語・語彙・意味）、日本語学研究（音声・音韻）、英語教育学研究、日本語教育学研究、応用言語学研究、英日対照言語学（統語）

2. 大学院進学支援ワークショップ

2011年6月29日（水）、7月2日（土）に、大学院進学支援ワークショップとして、以下の授業が行われました。

テーマ：英語アカデミックリーディング入門、英語アカデミックライティング入門、日本語アカデミックリーディング入門、日本語アカデミックライティング入門、研究計画書の書き方

3. 大学院キャリア教育講演会

2011年7月2日（土）に、大学院キャリア教育講演会として、「通訳翻訳の世界／日本語教育の世界から」という題目で、大澤啓子氏（翻訳・通訳者）、上原由美子氏（日本語講師）による講演会が行われました。

■大学院説明会

以下の日程で、博士前期課程、博士後期課程の入試説明会を行いました。

- 1回目 2011年7月2日（土）
- 2回目 2011年9月3日（土）
- 3回目 2011年12月10日（土）

■言語教育公開講座

2011年9月17日（土）に、神田外語大学大学院 言語科学研究科主催で、神田外語学院 本館7階講堂において言語教育公開講座『多様化する教師、多様化する学習者—日本語教育の場合—』を開催しました。日本語教育分野における、役割や関わり方について、日本語教育に関心がある方々を中心に議論がなされました。

始めに「日本語教育のための音声・文法再入門」というタイトルで木川行央教授と岩本遠億教授によりワークショップが行われました。次に基調講演として、「多様性から見た日本語教育の現状と展望」というタイトルで尾崎明人氏（名古屋外国語大学・教授）により講演が行われました。講演として、始めに「地域日本語教育における教育支援」（伊藤健人氏・群馬県立女子大学准教授）、次に「外国人日本語教師の研修とその教育現場」（木田真理氏・

国際交流基金日本語国際センター専任講師)、最後に「第二言語習得・教育研究の視点から」(堀場裕紀江・本学教授)が行われました。

その後、懇親会にて、講演者と聴衆との間で和やかな雰囲気のもと交流が行われました。

■浜風祭におけるポスター発表

2011年10月22日(土)、23日(日)に本学3号館にて、博士前期課程の学生7名(岡野晃子、佐々木真希、杉田健一、雨宮沙江、林君憶、趙江、渡邊亜砂美)が修士研究の内容についてポスター発表を行いました。

■海外での日本語教育実習

2012年3月1日から3月22日まで、海外日本語教育インターンシップにより、国際交流基金の援助を受け、中国・天津の南開大学外国語学院日本語学科へ、博士前期課程の学生2名(安中妙、富田彩月)を派遣しました。活動の内容については、当該日本語プログラムの担当教員の指導のもと、授業の見学・観察および授業実践を行いました。また、活動ジャーナルの提出および、報告書の作成を行いました。

言語科学研究センター（CLS）活動報告

■言語学コロキウム

2011年7月13日（水）に本学2号館にて、言語学コロキウム「日本語にも人称一致はあるか？」を開催しました。講師として、宮川繁氏（MIT・教授）を招き、“How Uniform Are the Languages of the World?”という題目で講演が行われました。また、宮川氏の講演に続いて、「日本語の一致現象について」というテーマで井上和子氏（本学名誉教授、CLS顧問）と長谷川信子氏（本学教授、CLSセンター長）が問題提起を行い、宮川繁氏を加えて活発なディスカッションが行われました。なお、コロキウム後の懇親会では、インフォーマルな中で更に討論が行われました。

■研究論文集の刊行

2010年7月にCLS10周年を記念して開催された講演会・研究会『70年代「日本語の生成文法研究」再認識』に発表された論文を中心に、2011年11月に長谷川信子氏（本学教授、CLSセンター長）編集による研究論文集『70年代生成文法再認識－日本語研究の地平－』（xxxii+366頁）が開拓社出版より刊行されました。収録論文の著者（所属）と論文タイトルは以下の通り。

井上和子（本学名誉教授、CLS顧問）「モーダルをめぐって」、久野暲（ハーバード大学名誉教授）「二重主語構文の構造」、藤巻一真（CLS研究員）「副詞のかき混ぜと焦点解釈」、長谷川信子（本学教授、CLSセンター長）「所有者分離」と文構造－「主語化」からの発展－、岩本遠億（本学教授）「シテイルが持つ継続的状态性と結果の意味－井上和子『変形文法と日本語』と事象投射理論－」、栞原和生（本学教授）「補文標識とWh句の共起関係について－理由を表すWh付加詞を中心に－」、眞鍋雅子（CLS非常勤研究員）「コト節におけるトイウの統語的機能」、中村浩一郎（広島女学院大学教授）「トピックと焦点－「は」と「かき混ぜ要素」の構造と意味機能－」、大倉直子（CLS非常勤研究員）「受益構文と、機能範疇としての「あげる」」、高橋清子（本学准教授）「タイ語の関係節構文」、上田由紀子（秋田大学准教授）「日本語